

玉手山学園広報

No.67 秋号
2011年9月30日
総合学園広報誌

建学の精神 「感恩」

人はみな有形無形の数々の恩恵を享受し、今の自分がある。この偉大なほかに目に目覚め、深い感動と感謝の念から発する豊かな心と情熱をもって、人の幸せを願う行動するとき、われわれは社会に貢献することができる。

「ありがとう」に出会い気づき、感動・感謝の行動から、また新しい「ありがとう」が生み出されていく。

心に響く感性・優しさ、素晴らしい力

忘れず見失わず大切に育てていく

まもなく平成24年(2012)
70 学園創立
周年

本校 高校生を誇りに思う

本年3月11日、1000年に1度ともいわれる最大級の大地震が発生しました。想像を絶する惨状に、「自分でも何かできることはないか?」と誰もが思っただけです。本学園でも義援金



理事長 江端 源治

募金を行い、多くの方々から温かいご芳志をいただきました。

そんな中、本校の高校生有志は自発的に街頭募金活動(国分駅前)を行いました。初めての経験、公衆の面前で大きな声をあげ、さぞ照れくさかつたろう。…と思います。しかし彼らの純粋な姿・気持ちに、町の人たちは「御苦労さま!」の労いの言葉と多くの募金で応えてくれました。高校生たちは、人の優しさ温もりを肌で感じ取り、そして「自分でもできるんだ、できた!」という達成感、自信を得ることができました。そして彼らは自らの手で日本赤十字社へ義援金を手渡しました。そんな高校生たちを私は誇りに思います。

本来、人は(特に若者は)心に

響く感性・優しさ、素晴らしい能力(無限の可能性)を持っています。それを忘れず見失わず大切に大きく育てていきたい。そのお手伝いをするのがわれわれ学園教職員の仕事(使命)です。責任重大ですがとてもやりがいのある仕事です。



高校生 街頭(国分駅前)募金

学園70周年

「学園3世代人」に

感謝、表彰!

1942年(昭和17年)創設の本学園は、おかげさまで2012年に70周年を迎えます。幾多の試練を克服してきた多くの先人の尽力の賜物です。この学園で学んできた大勢の「仲間」学生・生徒・園児のみならず、卒業生総数は約6万人となりました。時代を生き抜き社会を支えている卒業生たちは、学園の誇りであり宝物です。創設期の方々は、お孫さんも成人されている方がたくさんおられるはずです。70周年を機に、親子孫の3世代に渡って本学園の卒業生(在籍中もOK)である方々を感謝の気持ちを持って表彰したい

と願っています。記録を辿って調査しますが、最後は人の記憶が一番の頼りです。ぜひ”私”がそうです、私は知っています。“のたくさんの一報を待っています。”

何かに夢中になる 素晴らしさ

この春、大学ハンドボール部の春季大会の試合を観戦、応援しました。勝てば嬉しく負ければ悔しい。しかし何より、学生が直向きに懸命にプレーしている姿から確かな元氣・喜び・感動をもらえます。僅差であと一歩及ばず、1部リーグ昇格戦に敗退しました。キャプテンは悔し涙を流していました。何かに打ち込むことはとても素晴らしい、「何故負けた?」と考えそして必ず上手くなる?」と考えると間違いなく死に練習することで間違いなく



ハンドボール部 秋こそ、1部リーグ昇格を目指すぞ!

選手たちは成長していきます。悔し涙も成長の糧となるでしょう。

意志ある心で道は開ける
(Where there's a will,
there's a way.)

今春の卒業生たちもよく頑張ってくれました。たとえば社会福祉士合格122名(全国6位)、養護教諭採用38名(西日本トップクラス)などの素晴らしい成果は、教職員の熱意ある支援と、何より学生たち自身の粘り強く実直な努力の成果です。特別な仕掛けや特効薬はありません、なりたいたい自分になる”という高い志(夢)が一番のエネルギーです。何でもいい!、志(夢)、目的に向かって一生懸命になることは素晴らしいことです。意志あるところに道は開ける。



学園 ニュース

東日本大震災に対する 義援金募集活動について

関西福祉科学大学高等学校生徒会

生徒会では、4月11日(月)から16日(土)までの1週間、近鉄河内国分駅付近および、高等学校正門付近で、東日本大震災に対する義援金活動を行いました。国分駅では7時30分~8時

10分、正門では8時10分~8時25分の時間帯で、出勤される方々、登校する本校生徒に挨拶をしながら募金を呼びかけました。最初は「東北の方々のために」という想いで始めたのに、

活動していく中で「苦労様」と声を掛けて毎日募金をして下さる方や、挨拶する声を聞いて自宅からわざわざ募金するために家を出て来て下さった方、家の1円玉、5円玉をかき集めて来て下さった方や、自分のお小遣いを入れてくれた幼稚園の児童など、募金をして下さる方々、本校生徒の”思いやり”や”優しい心”が伝わってきて、逆に人間の素晴らしさ、日本人の温かさを知ることができ、感動しました。国分駅前で87,895円、正門で55,240円、合計143,135円を募金頂き、日本赤十字社に届けました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

社会福祉学科 卒業生・在学生交流セミナー

社会福祉学科長 津田耕一

6月25日(土)に社会福祉学科卒業生の同窓会を兼ね、在学生との交流会を開催しました。第1部中島裕准教授による「英国におけるソーシャルワーカーの実態と養成教育について」というテーマで講演会、第2部卒業生交流会、第3部卒業生と在学

生との交流、そして最後には懇親会というプログラムで実施されました。当日は、卒業生126名、在学生25名、教職員21名の参加があり、久々に母校にて親交を深めました。さまざまな分野で活躍する卒業生が情報交換や名刺交換を行うとともに

に、在学生との交流会では在学生が就職面や社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験について熱心に卒業生に質問をしたりアドバイスをもらったりして有意義なひと時を過ごしました。今後も大学と卒業生、そして在学生とのつながりをさらに強くするとともに、3000名を超える社会福祉学科卒業生の力を生かし、福祉現場に限らず各方面に「福科大魂」を広めていきたいと痛感しました。

学園70周年記念行事について

学園70周年記念行事実行委員会

本学園は、平成24年(2012年)に創立70周年を迎えます。学園では70周年を迎えるにあたり、「70周年記念行事」として様々な行事の実施、また予定をしております。

平成23年8月末現在の状況をお知らせします。

現在実施中の主な記念行事

①フォトコンテストの実施

・学園の様子、四季の風景等を撮影した写真を募集していただきます。

募集期間は、平成23年4月1日～平成24年3月31日(第1期～第4期)です。

・第1期募集を終了し、選考の結果15作品が入選となりました。

入選作品に対しては、副賞として図書カード(2000円券)が贈呈されました。

・現在、第2期募集(平成23年7月1日～平成23年9月30日)を実施中です。

教職員・OBの皆様、大学・短大・専門学校(の)学生、保護者、卒業生の皆様からの応募

をお待ちしております。

②70周年記念寄付事業

・募金期間は、平成23年6月1日～平成25年3月31日です。

・大学・高校の同窓生及び専門

門学校在校生向けに1620

1通の「募金趣意書」を発送し

ました。短大は同窓会からの

郵便に同封済みです。

・教職員の皆様へは、9月下旬頃ご案内の予定です。

今後予定・企画検討されている記念行事

①70周年記念K'sコンサートの実施

平成23年12月23日(金・祝)実施予定

②70周年記念誌の発行

平成24年4月完成予定

③70周年記念式典・祝賀会の開催(学外・学内向け共)

日時 平成24年5月11日(金)

11時開始予定(学外向け)

場所 帝国ホテル大阪

④その他 同窓生向けイベント

(ホームカミングデー)、二上山

登山、3世代(親・子・孫)の

表彰、広場・小路等の名称募集、

人文字等の企画を検討中です。

既に実施された記念行事

既に実施された記念行事

①省エネルギー標語募集

・募集期間を平成22年11月1日～平成22年12月24日とし、

889作品の応募があり、9

作品が入選し、表彰されました。

②70周年シンボルマークの制定

・デザインが決定しました。

・平成23年4月～平成25年3

月まで使用し、70周年を積極的にPRします。

③70周年記念中学生バレーボール大会の実施

・平成23年7月9日(土)・7

月10日(日)、近隣中学校22校

のご参加を頂き、実施しました。

・優勝校は、柏原中学校(男子)

子)、堅下南中学校(女子)でした。

④大学・短大・高校 合同オープン

キャンパスの実施

・平成23年8月28日(日)、大

学・短大のオープンキャンパス

には、保護者を含め計47

4名、また高校の入試説明会

には保護者を含め計166名

の方の参加がありました。

⑤70周年記念講演「みんなち

がって、みんないい」の実施

・平成23年8月28日(日) 講

演者 乙武洋匡氏

・学生、生徒、保護者及び一

般市民の方を含め、総勢13

28名の方の参加があり、盛

況のうちに終了しました。

平成23年8月28日(日)玉手山学園内記念講堂にて、学園創立70周年記念「乙武洋匡講演会」を開催しました。

学園創立70周年記念講演「乙武洋匡講演会」を開催しました

入試広報部

当日は、午前中に大学・短大がオープンキャンパスを、高校は入試説明会を実施し、午後からは来校していただいた皆様に記念講演を聴いていただきました。

記念講演へは一般参加も加わり、全体で1,300名を超え、参加者がありました。当日、メイン会場である記念講堂(収容定員1,100名)に入場できなかった皆様のために、学園2号館と大学4号館にて、映像配信により講演会の様子を聴講していただきました。

記念講演では、玉手山学園吹奏楽団、及び関西福祉科学大学手話部(growth)によるオープニングイベントに始まり、江端理事長による挨拶の後、『五体不満足』等の著者でもある作家の乙武洋匡さんによる「みんなちがって、みんないい」という演題で、ご講演を頂きました。講

演の最後には、乙武さんと本学園の学生・生徒による対談もあり、乙武さんの素晴らしい人間性に触れることができました。



乙武洋匡さんに花束を贈呈



記念講演会オープニング

玉手山学生赤十字奉仕団 「銀色有功章」受彰

関西女子短期大学 教授 高木信良

当奉仕団は、平成6年9月に関西女子短期大学学生赤十字奉仕団として発足。平成18年度より関西福祉科学大学の学生も加わって活動を展開。平成19年には短大と大学の学生赤十字奉仕団を合体させ、玉手山学生赤十字奉仕団として名称変更を行い、活動を継続しています。これまで赤十字事業の進展に継続して貢献したことに対して日本赤十字社大阪府支部長より2度にわたり授与されている。また、昨年7月には献血推進協力

団体として大阪府知事感謝状を授与されました。

この度、平成23年3月13日に平成22年度赤十字ボランティアのつどいが日本赤十字社大阪府支部で予定されていましたが直前の東北地方の大災害の影響で中止となり、後日4月に入って伝達されたものであります。関西女子短期大学赤十字奉仕団発足以来、多年にわたり赤十字事業の進展に貢献してきた功勞に対し、日本赤十字社より「銀色有功章」が授与されました



生き生きと輝く心と身体を目指して 「動く楽しさを感じ、体力向上を図る」

幼稚園体育主任 村井 恵

平成十九年度から三年間、文部科学省の「幼児期における体力向上プログラム実践事業」の指定を受け、実践園として体力測定と体力向上を図るための遊びのプログラムに取り組んできました。

子どもの運動習慣は小学校の中、高学年ではすでに遅く、幼児期から積極的に取り組むことが望ましいとされています。本園は豊かな自然環境と各種の設備に恵まれ、運動遊びや体力には自信を持っていましたが、測定の結果、積極的に運動遊びに取り組む子どもと、そうではない子どもとの間に大きな差があることを知り少なからずショックを受けました。プログラムの一環として、ピョンピョンチャレンジ(縄跳び)・スイスイチャレンジ(水泳)・ファミリーエクササイズ(親子体操)に加え、講師の先生の指導を受けながら、園でも遊びの改善に取り組んでいきました。

そしてその結果を平成二十三年八月七日(日)大阪教育大学柏

原キャンパスで開催された、日本幼児体育学会 第七回大会で、我が園もポスターにして発表させて頂きました。当日は柏原市、大阪市、和歌山市、川西市などから幼稚園、保育園三十三園が参加しそれぞれの取り組みを発表されていました。遊びへの教師のかかわり方や子どもへの興味付けなどたくさんの方の工夫を知ることができました。

運動遊びに取り組むことで、身体全体をバランスよく使える

よくなることや、「できた」という喜びは、子どもの心と身体成長に欠かせないと思われました。達成感や周囲から認められた嬉しさ、満足感から新しいことに対する期待や好奇心が生まれ、いろいろな事に挑戦してみようとする勇氣も湧いてきます。そんな生き生き輝く心と身体を目指して、これから私たち保育者も子どもたちと共に楽しみながら取り組んで行きたいと思えます。



体育館での遊び



登り棒

歯科保健指導実習を終えて

関西女子短期大学 歯科衛生学科

関西女子短期大学 歯科衛生学科では、例年5月に附属幼稚園での歯科保健指導実習を実施しています。学生達は、園児さんの年齢に合わせたお話を考えたり、人形などの媒体を作ったりと様々な準備をし、何度も練習を重ねて本番に臨んでいます。本年度は、多くの方々のご協力により、寺方幼稚園と守口東幼稚園での歯科保健指導実習を実施することができました。これまで1回であった幼稚園での歯科保健指導実習が2回もしくは3回経験できることとなり、1



歯垢染色の様子

回目よりも2回目、3回目と回数を重ねるごとに学生の成長を感じ取れました。また、両幼稚園では、媒体や歌を取り入れたお話と集団歯磨き指導に加えて、一人一人の園児さんの歯の汚れを染め出す歯垢染色を取り入れました。学生にとって園児さんと個別に触れ合う貴重な機会となっていました。本実習は本当に多くの方々に支えられて実現いたしました。この場をお借りしまして、皆様にご心から感謝の意を表します。



媒体を用いたお話

大学・短大各学科のオープンキャンパス取組状況について

入試広報部

オープンキャンパスに参加してから出願を決める入学生は、本学の場合で、大学が全体の47%、短大で77%になります。それだけ、受験を考える高校生にとって、オープンキャンパスは進路選択の大切な要素になっているようです。今年も多彩なイベントでオープンキャンパスが盛り上がりました。今回は特

に入試広報部です。例えば参加者の目にふれる展示物一つをとってもわかりやすく見やすい工夫があり、オリジナルの展示物にも目を奪われます。授業で学ぶ内容をパネルにして展示したり、教員一人ひとりの顔の紹介をしたりと、学科の特性を活かしたオリジナルのツールも各学科で用意されています。また各学科で準備して

るオリジナルのパンフレットなどは、他の大学にはない本学らしさが伝わってきます。イラストや写真などでわかりやすく、見るだけでも学科の雰囲気伝わってきます。

関西女子短期大学 保育科では、今春、新しく実習室が完成し、参加者とのふれあいランチの会場に使用するなど、学科毎での工夫も目立ちます。

参加者にとって希望する大学や短大のより詳しい内容がわかるのはうれしいもの。今年のオープンキャンパスは昨年よりさらにパワーアップしています。ぜひ一度、学園の皆さんも見に来てください。

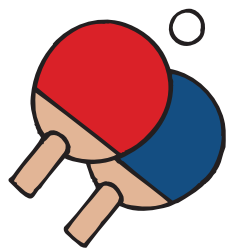
女子卓球部、近畿大会に出場

高校卓球部顧問 中原 完

今年度、高校卓球部は、第六五回近畿高等学校卓球選手権大会に出場することができました。五月に行われました大阪高校卓球選手権大会で勝ち上がり、初めてシングルス、ダブルス、団体と3種目での出場を果たすことができました。昨年は近畿新人大会に出場できましたが、団体種目のみでしたので大

きな進歩だと思えます。しかし、シングルスで出場した3年生の杉田真希は兵庫県の姫路西高校の選手と対戦し敗退。ダブルスは杉田真希と2年生の南彩夏のペアで奈良県の平城高校のペアと対戦し敗退。団体は杉田真希、南彩夏、2年生の長浜彩、田島抄妃、中野みゆき、山田唯奈六人で出場しましたが、滋賀県の

甲西高校と対戦し敗退しました。大阪では上位に入ればしたものの近畿圏では全て一回戦負けを喫してしまい、ここからの課題はもっと練習を重ねる外でも勝てる力を身につけていくことだと思います。今回多くの応援を頂き感謝しております。これからもご支援よろしくお願ひ致します。



「ビジネススマナー研修会」開催

法人本部総務部 奥田美紀

平成23年5月27日、短大医療秘書学科長の堀教授に講師をお願いし、若手職員の方にビジネススマナーの基本知識や動作を習得していただくことを狙いとした「ビジネススマナー研修会」を開催いたしました。

当日は、採用後3年以内の職員を中心に13名が参加され、社会人としての基本、人間関係の基本、接遇、電話応対等社会人として最低限必要なことを演習を

含めて熱心に受講していただきました。

受講者からは、「実践を交えての研修だったので楽しかった、即業務に活かしていきたい、頑張りたい」といった前向きな感想を頂き、盛況のうちに研修を終えることができました。

今後も新入職員ならびに希望する職員向けに、執務力向上につながる研修企画をしていく予定です。



堀先生の指導に少し緊張しました

学園の省エネルギー対策について

法人本部施設部 田堀富造

今年の3月11日には、東日本大震災が発生し、その後の原発事故もあって、今夏は全国的な節電モードとなりました。こうした状況を受け、学園では、6月10日の所属長会で、最大で20%を削減する努力を各校園に依頼しました。

最終の目標数字は、各校園の判断でとなりましたが、具体的な実施対策と試算を行い目標数字を決めていただくこととなりました。

設備投資の計画がなかった中で、運用面での具体的改善対策の早急な実施が望まれました。学園本館棟で実施できる対策を具体例として、各校園に紹介し、省エネチームで各校園の運用状況を視察して、改善できそうな事項、ムダの削減などの提案もしました。

また、各校園の毎月の光熱費の使用量を前年比較して速報値としてお知らせしています。

実施事項

①空調運転時間の短縮(特に、1階、2階の食堂施設)と運転

エリアの縮小

②空調本体の冷媒温度を2℃アップ

③共用廊下の消灯、執務エリアの照明の電球の間引き

④電気温水器(手洗い)の夏場のスイッチのOFF

大学施設では

⑤2台EV、2台自動ドアの1台運転休止

各校園では、

⑥空調の設定温度を状況により26℃～28℃と前年比2℃アップの設定

⑦節電・消灯の監視・運用体制の強化

⑧空調の運転開始時間と終了時間の短縮見直し

4月～8月の実績

各校園のご協力もあって、4月～8月の実績は電気使用量で前年比90・4%(新設の大学4号館を含むと93・4%)、ガス使用量(主に空調)では、82・2%(新設の大学4号館を含むと85・4%)と節約成果が見えています。



大学4号館

学生・生徒・園児及び教職員の皆様のご理解・ご協力に感謝いたします。
今後は、照明設備のLED化など設備投資の検討・実施と省エネ運用がマンネリとならないよう「継続は力なり」を創意と工夫で継続実施していきたいと思

平成22年度決算報告

資金収支計算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位 千円)

収入の部		支出の部	
科目	決算	科目	決算
学生生徒等納付金収入	3,810,375	人件費支出	3,002,454
手数料収入	72,887	教育研究経費支出	790,173
寄付金収入	7,125	管理経費支出	438,739
補助金収入	711,379	施設関係支出	749,191
資産運用収入	69,422	設備関係支出	89,098
事業収入	63,529	資産運用支出	256,500
雑収入	56,514	その他の支出	258,749
前受金収入	746,487	資金支出調整勘定	△204,421
その他の収入	93,935	次年度繰越支払資金	6,429,971
資金収入調整勘定	△795,574		
前年度繰越支払資金	6,974,375		
収入の部合計	11,810,454	支出の部合計	11,810,454

【資金収支計算書】

納付金収入は、学生・生徒数が前年度と比べ減少したため、予算比72百万円、前年度比305百万円減少の3,810百万円となりました。

手数料収入は、志願者数減少により入学検定料収入が減少したものの、センター試験手数料等その他手数料が増え、予算比、前年度比同水準の73百万円となりました。

補助金収入は、国からの経常費補助金の増加により予算比157百万円、前年度比17百万円増加の711百万円となりました。

資産運用収入は、国内経済の長期低迷による預金利率の低下で、予算比では2百万円増加したものの、前年度比2百万円減少の69百万円となりました。

事業収入は、補助活動事業収入が予算比、前年比共に減少したものの、受託事業収入が増加し予算費2百万円増加、前年度比同水準の64百万円となりました。

雑収入は、退職金財団からの交付金収入により予算比26百万円増加したものの、前年度比では24百万円減少の57百万円となりました。

前受金収入は、学生・生徒・園児の入学者数が当初見込みより減少し、予算比169百万円減少したものの、前年度比同水準の746百万円となりました。

収入全体では予算比62百万円減少、前年度比230百万円減少の4,836百万円となりました。

人件費については、教職員数は学園全体では昨年より増員があったものの、人件費総額を抑制するという基本方針のもと、金額においては予算比36百万円、前年度比90百万円減少の3,002百万円となりました。

経費については、各部門における節減効果が大きく予算比156百万円の減少となったものの、前年比については、教育研究経費支出、管理経費合計で1,229百万円の支出となりました。

施設、設備関係支出では、大学新校舎建設関連の支出が668百万円となり、予算比では82百万円減少した。

上記の結果、法人全体として期中の支払資金は前年度より544百万円減少し、6,430百万円となりました。

消費収支計算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位 千円)

消費収入の部		消費支出の部	
科目	決算	科目	決算
学生生徒等納付金	3,810,375	人件費	3,023,969
手数料	72,887	教育研究経費	1,214,998
寄付金	11,254	管理経費	499,174
補助金	711,379	資産処分差額	6,511
資産運用収入	69,422	徴収不能額	1,330
事業収入	63,529		
雑収入	56,539		
帰属収入合計	4,795,385		
基本金組入額	△716,332		
消費収入の部合計	4,079,053	消費支出の部合計	4,744,652
		当年度消費支出超過額	665,599
		前年度繰越消費収入超過額	2,063,353
		基本金取崩額	20,102
		翌年度繰越消費収入超過額	1,417,856

【消費収支計算書】

資金収支計算書・収入の部と同様、納付金・手数料・資産運用収入の減少、補助金・事業収入の増加等の要因により帰属収入の合計は予算比128百万円増加、前年度比315百万円減少の4,795百万円となりました。

大学新校舎建設等による基本金への組入が716百万円あり、消費収入合計は予算比332百万円の増収、前年度比675百万円増収の4,079百万円となりました。

資金収支計算書・支出の部と同様、人件費については予算比48百万円の減少、前年度比59百万円減少の3,024百万円となりました。経費については削減効果により予算比154百万円減少したものの、前年度比では2百万円増加の1,230百万円となり、消費支出合計では予算比200百万円減少、前年度比62百万円減少の4,744百万円となりました。

当年度消費収支差額は予算では1,197百万円の支出超過でしたが、経費の節減と大学新校舎建設関連支出の一部が翌年度になったことにより収支見込が変わり、実績は665百万円の支出超過となり収支が改善され、翌年度繰越消費収入超過額は1,418百万円となりました。

なお、帰属収支差額は51百万円の収入超過となり引き続き健全財政を維持しました。

貸借対照表

平成23年3月31日

(単位 千円)

資産の部		負債の部	
科目	本年度末	科目	本年度末
固定資産	17,291,375	固定負債	697,905
有形固定資産	12,514,818	退職給与引当金	678,577
その他の固定資産	4,776,557	長期未払金	19,328
流動資産	6,526,159	流動負債	1,210,554
現金預金	6,429,971	前受金	748,487
その他	96,188	その他	462,067
		負債の部合計	1,908,459
		基本金の部	
		科目	本年度末
		第1号基本金	20,187,219
		第4号基本金	304,000
		基本金の部合計	20,491,219
		消費収支差額の部	
		科目	本年度末
		翌年度繰越消費収入超過額	1,417,856
		消費収支差額の部合計	1,417,856
		科目	本年度末
		負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	23,817,534
資産の部合計	23,817,534		

【貸借対照表】

固定資産については、大学新校舎建設関連の支出を建設仮勘定として668百万円計上。

また、その他の固定資産として減価償却引当特定預金が増加し、固定資産合計では604百万円の増加となりました。

流動資産の減少は、新校舎建設関連支出による現金預金の減少によるものです。以上の要因により、資産総額は前期末比28百万円増加の23,817百万円となりました。

未払金の減少により、負債総額は前期末比23百万円減少しました。大学新校舎建設等による1号基本金組入に対し、備品の過年度簿外処理分の減額もあり、全体では696百万円の純増となります。

消費収支計算書の部で述べたように、翌年度繰越消費収入超過額は、前期末比645百万円減少し、1,418百万円となりました。また純資産は前期末比51百万円増加の21,909百万円となりました。

※22年度計算書類の詳細については、玉手山学園ホームページ<http://www.houjin.fuksi-kagk-u.ac.jp>に掲載しております。

平成23年度予算概要

資金収支予算書 平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

(単位 千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	3,605,506	人件費支出	3,257,345
手数料収入	71,657	教育研究経費支出	969,493
補助金収入	564,942	管理経費支出	434,814
資産運用収入	53,529	施設関係支出	626,311
事業収入	48,091	設備関係支出	307,551
雑収入	66,516	資産運用支出	311,000
前受金収入	752,814	その他の支出	199,640
その他の収入	50,620	[予備費]	15,000
資金収入調整勘定	△805,868	資金支出調整勘定	△142,355
前年度繰越支払資金	6,429,971	次年度繰越支払資金	4,858,979
収入の部合計	10,837,778	支出の部合計	10,837,778

【資金収支計算書】

平成23年度は、大学「保健医療学部」開設初年度であり、収支の均衡を欠く要素を含んだ予算編成となっている。

資金収入は、厳しい学生募集環境を反映して学生・生徒・園児数の減少が見込まれ、資金収入合計は、前年度比257百万円減の4,410百万円となった。

資金支出は、大学新校舎建設の完成が遅延し、年度を越えたため、平成23年度に新校舎関連の支出があり、資金支出合計は、前年度比232百万円増の5,585百万円となった。

その結果、資金収支差額は1,175百万円の支出超過となり、次年度繰越支払資金が減少する予算編成となっている。

消費収支予算書 平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

(単位 千円)

消費収入の部		消費支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	3,605,506	人件費	3,274,994
手数料	71,657	教育研究経費	1,410,841
補助金	564,942	管理経費	492,281
資産運用収入	53,529	[予備費]	15,000
事業収入	48,091		
雑収入	76,300		
帰属収入合計	4,420,025		
基本金組入額	△933,862		
消費収入の部合計	3,486,163	消費支出の部合計	5,193,116
		当年度消費支出超過額	1,706,953
		前年度繰越消費収入超過額	1,417,856
		翌年度繰越消費支出超過額	289,097

【消費収支計算書】

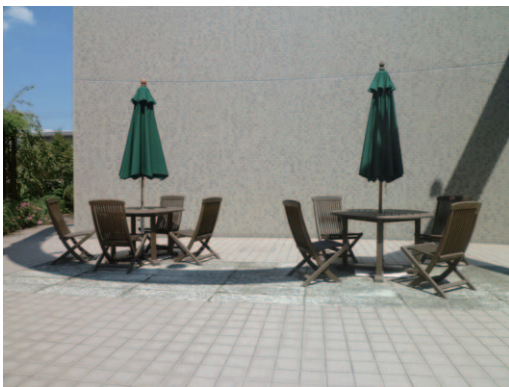
消費収支においても資金収支と同様の要因により、帰属収入合計は前年度比247百万円減の4,420百万円となり、消費収入合計は、校舎の基本金組入れ等により、前年度比261百万円減の3,468百万円となった。

消費支出は、新学部開設の関係もあり、「教育研究活動予算」が増加し、消費支出合計は、前年度比249百万円増の5,193百万円となった。

その結果、帰属収支差額の支出超過額が前年度比496百万円増の773百万円となり、消費収支差額の支出超過額が前年度比510百万円増の1,707百万円となった。翌年度繰越消費収支差額は、収入超過から支出超過となる予算編成となった。

※23年度予算書の詳細については、玉手山学園ホームページ<http://www.fuksi-kagk-u.ac.jp/>に掲出しております。

夏の屋下がり



夏休みの学園



■玉手山学園広報

発行人 本 部

No.67 平成23年9月30日発行

昭和63年4月12日No.1発行

学校法人 玉手山学園

関西福祉科学大学

関西女子短期大学

関西福祉科学大学高等学校

関西女子短期大学付属幼稚園

関西医療技術専門学校

〒582-0006 大阪府柏原市旭ヶ丘三丁目十一番号

電話(〇七)九九八一六六一番

フAX(〇七)九九七七八五八七番

<http://www.houjin.fuksi-kagk-u.ac.jp>